

# 進路ニュース **みらい** 64号

広島市立広島特別支援学校 校長 中尾 秀行  
(発行 進路指導部 広報係)

## 2学期の進路学習 ～高等部第1学年～

10月に行ったⅡ・Ⅲ類型の進路学習『高2職場体験実習から学ぶ』では、施設実習と企業実習を行った先輩のインタビューや実習の様子を視聴し、学校と職場の違いについて学習しました。自力で通勤されたことや休憩時間が学校より少ないこと、1年生のときから「体力」を付けておいたほうが良いことなどの言葉が、生徒の印象に残ったようです。また、重複・Ⅰ・Ⅱ類型の生徒は『仕事を体験しよう』でウエス作り、缶つぶし、ねじの組立て、折鶴解体、サンプル貼りの仕事を体験しました。教師の指示を聞いて、手順を守りながら時間いっぱい集中して作業に取り組む姿や日頃見ることができない作業性を発見することができ、卒業後の仕事について考える良い機会となりました。

12月には、『職場見学』があります。施設・企業等を訪問し、現場で行っている活動や作業を直接見たり、仕事をその場で体験させてもらったりすることで、学校とは全く違う雰囲気や、働くために大事なことは何かということを学びます。

3学期は、1月に5日間の『校内実習』に挑戦します。六つの作業グループに分かれて行います。2年生で行う職場体験実習につながるよう、「仕事」を意識した実りのある実習にしていきたいと思います。

また、今年度から『保護者対象の職場見学』を2年生の保護者と共に行っています。多くの方が参加され、早い時期から卒業後の進路を考えようとされている保護者の方の熱い思いを感じています。



## 職場体験実習報告会 ～高等部第2学年～

高等部第2学年での初めての職場体験実習も、残すところ3学期のみとなりました。生徒数が増え、また各行事や学習の合間を縫っての実施となりますので1学期から3学期までの長期にわたります。

日頃は一緒に学習活動を行う友達が、実習期間中は登校しません。今週は誰々君が実習、来週は誰々さんが実習・・・というように、校内の生徒たちは、学校以外で友達が仕事をしたり、活動をしたりしているのだということを実感します。

自分が職場体験をするということも大切ですが、友達の体験について知るということもお互いにとってとても重要です。友達の頑張っている姿や仕事の様子を見たり、お互いの頑張り認め合ったりすることが、やる気や自信につながり卒業後の生活や進路について考えるための意識が高まっていきます。

生徒たちの職場体験実習の報告会は、進路学習の一環ですが、3年生に向けて進路の取組を進める上でも大事な学習となっています。



## 卒業後の生活に向けて ～高等部第3学年～

10月29日に広島市健康福祉局障害福祉部自立支援課の方に来ていただき、卒業後に利用する施設(障害福祉サービス事業所)の申請の手続き等についての研修会を行いました。また、サービス等利用計画書の作成についても説明していただきました。お忙しい中、多数御参加いただきありがとうございました。

「生活介護」「就労継続支援B型」「自立訓練」「就労移行支援事業」の施設・作業所を利用希望の方は、12月1日から14日に居住区の区役所保健福祉課で支給申請をしていただいていると思います。希望者の数が上回っている場合は、抽選をしていただくことになります。抽選は1月下旬の予定で、対象の御家庭には1月中旬に案内が届く予定です。

また、福祉サービスを利用する際、サービス等利用計画案が必要となります。どこの事業所に作成してもらおうかお決まりですか。セルフプランの方もおられると思いますが、計画案がないとサービス利用が受けられませんので御注意ください。

12月2日には、「卒業生から学ぶ」「余暇活動の体験」の進路学習がありました。「卒業生から学ぶ」では、本校の卒業生を招き、仕事やお金の使い方、休日の過ごし方などのお話を聞きました。働く上で心掛けておられることや困ったときにどうされたかなどいろいろと話をしていただき、卒業後の生活について考える機会となりました。また、「余暇活動の体験」では、広島現代美術館の見学をし、公共施設の利用について学習することができました。

いよいよ卒業まで残すところ3か月足らずとなりました。3学期は同窓会についての進路学習や進路先との引継ぎ会など行っていきます。御家庭でも、卒業後の生活を見据えた話を冬休みの間にじっくりとしていただけたらと思います。

障害福祉サービスの利用までの流れ

申請（生介、B型等）→障害支援区分認定（生介）→サービス等利用計画案の作成→支給決定→受給者証の交付→4月からの利用

\* A型事業所については申請時期が異なります。

## 働く力を高めるために ～職業コース～

職業コースでは、特別支援学校技能検定5分野11種目全ての受検を全員が行います。求人する企業が多種多様化する中で、業種によって求められる力が違ってきます。学習内容として取り組み始めて4年になりますが、技能検定に向けて学ぶ中で身に付けた知識や技能が自分の進路を決定する上で大きな効果になっていると実感しています。

どの職場でも清掃は必ずあります。自在ほうき、ダスタークロスモップ、水モップの技術は、実習のときに「お願いします。」と、指示されてもちょうちよすることなく、自信をもって取り組むことができます。食品製造・販売関係では、手洗いの基本が定着していることに驚かれます。これは、流通・物流技能検定や食品加工技能検定での手洗い・消毒の基礎技術の習得から身に付いたものと言えます。接客技能検定で求められている力は、接客技術にとどまることなく挨拶や店内での対応マニュアルを理解することに役立っています。

1年生で4分野8種目を受検するため、たくさんの力を付けることができました。2年生になって反復練習を行いながら新たにスクイージー、食品加工技能検定2種目を加えています。様々な内容を身に付けることで、自分に適した職業選択をする力も付くようです。



食品加工技能検定〈流しの洗浄〉



接客技能検定〈お水のサービス〉

3年生は、卒業まで残り3か月足らずとなりました。3学期には就労前に仕事を覚え、職場の方々とコミュニケーションをとることを目的に実習を行います。同窓会についての説明や卒業生のお話を聞く学習を通して卒業後の生活を見通せるよう支援したいと思います。

## **最近の就職環境と求められる人材 ～就職支援教員（JST）より～**

本校での就職支援も4年目になりました。就職志望生徒の大多数が内定しましたが、これから実習という生徒もいて、粘り強く取り組んでいます。最近、企業との面談で感じています。広島では自動車部品製造の企業が多く、業績が好調なため、若い人材がそちらに流れて行き、その他の業種では人材不足が起きているようです。特に清掃業や食品製造業、物流企業は若手人材を求めている、本校生徒の採用余地が増えているようです。生徒の希望職種にも変化があり、部品製造の会社や事務関係の仕事を希望する生徒が増えてきて、これらの職種にも年々生徒が就職するようになってきました。毎年思うのですが就職に必要な力は、①働く意欲が強いこと②社会人としての基本的なマナー（挨拶ができ、礼儀や態度が良いこと、元気で明るいこと）が身に付いていること③体力があること④公共交通機関が利用できること⑤志望する仕事と適性がマッチしていることで、これを早くできれば2年生の間に確定することです。上記の力を就職を希望する生徒に対しては本校での教育だけでなく、家庭においても家事手伝いや体力づくり、交通機関の練習などを通じて、身に付けさせるよう保護者の方には御協力をお願いします。

## **卒業一年目の生徒の様子 ～アフターケアより～**

本校では卒業後3年間、生徒の進路先や家庭に連絡をして卒業生の様子を伺っています。卒業後一年目は卒業時の担任が中心となり、春と冬に各家庭への電話連絡を行います。また、夏季休業中には進路先を訪問して、卒業生が働いている様子を見せていただいたり、職場の方からそれぞれの状況を教えていただいたりしています。

今年3月に卒業した第20期生89名についても、全員の様子を確認しました。初めは新たな環境に戸惑いを感じながらも、卒業生の多くが進路先の環境に慣れ、利用者の方たちと協力しながら仕事に励み、楽しく生活を送っている様子が伺えました。その一方、学校時代とは違う環境や長時間の仕事などで体調を崩すなどのケースもありましたが、旧担任と連携をしながら相談機関に掛かるなどの取組も行っています。今後も進路先や家庭と連携を図り、引き続きアフターケアを行っていきます。